

今、工業教育に求められるもの

山形県高等学校教育研究会 工業部会長

(山形県立長井工業高等学校長) 渡 部 慶 蔵

昨年末にアメリカの金融不況に端を発した百年に一度ともいわれる経済不況は、日本にも深刻な影響をおよぼし、自動車産業を中心として多くの派遣社員が次々に解雇される等、暗い話題が続いています。一方で、この不況の教訓として、金融経済に左右されない「ものづくり」を基盤とした実体経済の再構築と、そのための人材育成の重要性が指摘されております。

私は、このことを、日本の「ものづくり」を支える工業教育への追い風ととらえ、工業教育の一層の充実を図るチャンスであると考えております。今年度、文部科学省と経済産業省の共同事業である「地域産業担い手育成プロジェクト」に本県が採択されたことはまことに時機を得たものであり、指定を受けた四校（米沢工、長井工、寒河江工、神室産業）だけでなく県内全ての工業高校で取り組むことが重要であると考えております。

「ものづくり」教育の基本は、率先垂範です。本工業部会では、県内企業等のご協力をいただき、工業科教員を対象とした実技講習会を毎年開催しております。今年度も、前期は旋盤と電子回路組立、後期は旋盤とフライス盤の講習会を5月と2月に開催しました。電子回路組立は今年度の東北大会が本県開催ということもあり、工業校長会と共催して生徒の講習会も同時に実施したところ、県内各校より生徒39名、教員16名と多数参加して頂き、充実した講習会となりました。講習の成果は技能検定旋盤2級合格、ものづくりコンテスト東北大会電子回路組立部門2、3位入賞という形ですぐに現れました。後期のフライス盤は今年度初めての開催でしたが、こちらも予定を上回る参加でした。

このような先生方の工業教育にかける熱意が、技能検定の合格率や高校生ものづくりコンテスト等の好成績となって生徒に反映され、「ものづくり」への興味・関心・意欲といった工業人として重要な素養を身につけた「のびしろ」のある人材育成に結びつくものと考えております。